

1. 職名・氏名 准教授・石丸香苗

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年月 2005年2月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 導入ゼミ(なぜから考える科学)(2単位) 1年	
②内容・ねらい(自由記述) 自然科学・社会科学ともに、科学の基本は疑問を持って、それを確かめたいという気持ちから始まります。このゼミでは、なぜ?の気持ちを持つ練習をします。目標①なぜ?という気持ちを持つことに慣れる②なぜ?と思った事について調べる力を身に付ける③なぜ?から真実に至るプロセスを正しくたどれる力や方法の基礎を身に付ける。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 講義室だけではなく、図書館や野外なども含みながら、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなどを交える。スピーチや調べもの、レポートやメールの書き方など、大学の学業に必要なことを身に付けられるよう、工夫をしている。	
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 教養ゼミ(風が吹けば桶屋が儲かる?)(2単位) 1年	
②内容・ねらい(自由記述) 大学での勉強では既にある正解を返すのではなく、正解がないものに自分で真実へたどりつく力が大切になってきます。このゼミでは自分自身の考える力や、他者と協力して考える経験をとおして、ものごとの根幹にある原因や、引き起こされる結果を想像する練習をします。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 講義室だけではなく、図書館や情報演習室、野外なども含みながら、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなどを交える。スピーチや調べもの、レポートやメールの書き方など、大学の学業を深める力を付けられるよう、工夫をしている。	
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 地理学(2単位) 全学年	
②内容・ねらい(自由記述) 地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問です。本授業では地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを学びます。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 地理の情報を得るだけではなく、情報を空間的に整理してものごとを理解・推測できるような力を得られるように、授業の合間に小テストや質問を挟んでいる。小テストとふりかえりには毎回コメントを付して返却し、学習ポートフォリオとして期末レポートの参考に役立つようにしている。授業には折り紙を使った地形図の理解や、ビデオなど、飽きずに理解しやすい工夫をしている。また、取り上げる話題も、福井や海外、身の回りの事柄から世界の生活、宗教や言語と地理学など多岐にわたる分野を扱い、地理学のコンセプトが理解できるようにした。授業は講義形式以外に兼定島でのフィールドワークや、世界が100人の村だったらワークショップなど、体も動かせるタイプのアクティブラーニングを取り入れた。	
①担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 教養特講J(南米の社会と環境)(2単位) 全学年	
②内容・ねらい(自由記述) 環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係しています。よって環境問題の解決には、社	

会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になります。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはなりません。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考えます。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考えます。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。図書館を利用した調べ学習や、グループワーク、学外へのフィールドワークなどを行った。学生のアクティブラーニングが可能なように設計している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報基礎演習（1単位） 1年

②内容・ねらい（自由記述）

パソコンに関する基本的知識と技能を習得する。タイピング、ワープロ、メール、情報検索、プレゼンテーション技法、ホームページ作成の課題について自主的に学習する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

入学前の習熟度がバラバラであるため、一人ひとりに目を配るように気を付けている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
情報処理 F（2単位） 全学年

②内容・ねらい（自由記述）

映像制作(企画・撮影・編集)の作業や出来上がった作品の相互評価を通して、メディア理解・表現能力を養います。Adobe Premiere Elementsなどの動画編集ソフトを利用して、動画編集の基本操作を身につけます。①映像による表現の仕方を身につける、映像によって表現されるものを理解する②映像制作のプロセスを理解し、動画編集ソフトを使って簡単な動画が作成できる③著作権やインターネット上の映像公開の際のルールを理解する④映像製作の企画や撮影に必要なスキルを身につける

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

ソフトウェアの使用方法を学ぶだけではなく、表現力やコミュニケーション力なども映像作成をとおして涵養できるようにインタビューの方法や、CMなどの意図、著作権、ビデオやドローンの使用方法などを取り入れた授業設計を行った。出来上がった作品は学生相互の評価を取り入れ、オープンハウスとして上映している。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
教養の最前線 B(森と人の生態学)（2単位） 2-4年

②内容・ねらい（自由記述）

森林と人の活動に関する事柄を学びながら、気候変動・食糧安全保障など途上国の森林利用と管理や、持続的な開発と環境問題について考える。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

林業の現場や獣害対策箇所へのフィールドワークなどを行った。講義ではなくゼミ形式により、学生の予習復習を奨励。森林環境税のニュースなどの時事話題も取り上げ、一般教養科目よりもやや専門的な内容の授業を行った。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名
なし

②内容・ねらい（自由記述）

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

④本学における業務との関連性（自由記述）

(3)その他の教育活動

内容

COC 科目「地域課題をデザイン思考で考える」の全過程に学内外の教員とともに参加し、ファシリテーション等を行った。

4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p> <p>①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 西表島の社会情勢に伴うマングローブ林利用手法の変遷—利用を通じた資源管理の一事例—、共著(データ収集・分析・結果考察)、島嶼研究 21-1号、2020 刊行予定 <p>②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 森林生態学、朝倉書店(担当:分担執筆、範囲:6-1章 森林の多面的機能) 2019年4月 ● 抵抗の森・創造の森—アマゾン開発と民衆運動(担当:分担執筆、範囲:第6章 土地への闘い—社会的再生手段としての土地なし農民運動)現代企画室 2017年11月 ● No Life, No Forest(担当:ママイはととも幸せ—尊厳を取り戻す場所としてのアマゾン熱帯林) 2020年3月出版予定、京都大学出版会 ● キレと女たち、国際工芸観光論、昆洋書房、2020年度出版予定 <p>③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アマゾン川河口における土地なし農民による占拠地の土地利用変化、日本リモートセンシング学会、2019年11月29日、共同(データ収集・考察) ● ブラジル土地なし農民運動の意味するもの—尊厳の回復と連帯を目指して—、アンデス・アマゾン学会、2019年7月7日 ● 異なる人々が共にすること、分かち合うこと、神田外語大学イベロアメリカ言語学科主催「共同研究のすすめ—異なる地域/分野の研究者たちによる協働の実践と課題」2019年7月 ● 西表島仲間川マングローブ林床の衰退状態について—利用を通じた資源管理—(第二報)、熱帯生態学会、2019年6月、共同(データ収集・分析・考察) ● 文理横断型の共著・共同研究スタイル、フィールドネット・ラウンジ企画ワークショップ「共同研究のすすめ」、2019年2月 ● 土地への闘い—社会的再生手段としての土地なし農民運動、上智大学イベロアメリカ研究所シンポジウム、2017年11月30日 ● 西表島マングローブ林における利用手法の変遷—利用を通じた資源管理、第27回日本熱帯生態学会、2017年6月、共同(データ収集・考察) ● ブラジル北部の都市—都市近郊における人口移動と食糧の安全保障に関して、第27回日本熱帯生態学会 2017年6月、共同(データ収集・分析・考察) ● 西表島仲間川マングローブ林床の洗掘状態について—利用を通じた資源管理、第27回日本熱帯生態学会 2017年6月、共同(データ収集・分析・考察) ● New Middle Class Whereabouts?、京都大学日伯環境研究会、2017年3月 ● 北部都市近郊農村部貧困層における世代間社会移動、神田外語大学公開セミナー「ブラジルの社会的流動性と新中間層」、2017年1月 <p>④その他の公表実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 岡山大学と倉敷市水島の環境教育の協働取り組みについて、倉敷市環境衛生協議会総会特別講演、2017年5月 ● 食と農のアフリカ史—現代の基層に迫る— 日本熱帯生態学会ニューズレター 105、2016
<p>(2)学会活動等</p> <p>学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))</p>

<p>学会での役職など（学会名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2017年10月-2018年3月 砂防学会 中四国支部運営委員 ● 2017年9月-2018年6月 砂防学会 鳥取大会実行委員
<p>学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日）、開催場所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンデス・アマゾン学会福井大会、大会実行委員長、2019年7月、アオッサ
<p>(3)研究会活動等</p>
<p>①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名（期間））</p>
<p>②その活動による成果</p>
<p>(4)外部資金・競争的資金獲得実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 科研費基盤(C)(継続) 貧困層による人口移動と食糧確保問題—ブラジルの都市・都市近郊農村の非公式市場流通 研究課題、2016-2019年度
<p>(5)特許出願</p>
<p>なし</p>

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ● あわら市・坂井市 森林整備構想策定委員会 委員長 2019年度
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） ● NPO 法人森林再生支援センター 会員 2004年～
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間） ● 立命館大学経済学部小池ゼミ・上智大学外国語学部田村ゼミとの浜松合同ゼミ合宿「浜松から考えるエシカルな社会」。2019年1月13-14日開催
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） ● 科学研究費委員会専門委員、科研費審査(森林科学)、2015年～2016年度
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） ● 観光学の基礎、2018年度、アオッサ（3回登壇） ● 県大ワールドツアー、2018年11月、福井県立大学
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時）
③その他（名称、活動場所、活動期間） ● FBC ラジオ「ようこそ県大」 2018年6月30日
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間）
● 竹田地区での森林整備・鳥獣外駆除研究(学術教養センター加藤裕美先生との共同調査) ● 越前市武生地区でのブラジル人コミュニティの日本語教育調査

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2) 委員会・チーム活動
(名称、期間) 大学案内 2021 ワーキンググループ(全学) 学術教養センターカリキュラム委員会(部局内) 学術教養センター広報・研究委員会(部局内) 学術教養センター大学案内ワーキング(部局内) 大学案内プロポーザル審査会(全学) 海洋担当(部局内)
(3) 学内行事への参加
(行事名、参加日時) オープンキャンパスにおいて学術教養センターの体験コーナー等企画運営担当
(4) その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)